

平成25年 上半期
火災・救急統計

松山市消防局

目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	死傷者	1
3	出火原因	2
4	損害額	3
5	近年の火災状況	3
6	地区別火災件数	4
7	住宅用火災警報器の奏功事例	5, 6
第2	救急の概況	7
1	救急出場件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10

火

災

第1 火災の概況

松山市における平成25年上半期（1～6月）の火災概況は、火災件数80件、焼損棟数67棟、死者7人、負傷者21人、損害額8,424万6千円となっています。

1 火災件数

火災件数は80件で、前年同期（64件）と比較すると16件増加しています。火災件数を火災種別ごとにみると、車両火災件数の増減はありませんが、建物・その他・林野火災は増加しています。また、焼損棟数は67棟で前年同期（58棟）に比べ9棟増加しています。

（▲は減少）

火災種別	区分	平成25年	平成24年	増減
火災件数		80	64	16
建物火災		47	43	4
その他火災		26	17	9
車両火災		4	4	0
林野火災		3	0	3
船舶火災		0	0	0
航空機火災		0	0	0

※その他火災とは、田畑の雑草、ごみ等の燃えた火災をいいます。

（▲は減少）

焼損程度	区分	平成25年	平成24年	増減
焼損棟数		67	58	9
全焼		9	9	0
半焼		7	1	6
部分焼		17	19	▲2
ぼや		34	29	5

2 死傷者

火災による死者は7人で、前年同期（4人）と比較すると3人増加しています。また、負傷者は21人で前年同期（9人）と比べ12人増加しています。

（▲は減少）

死傷者	区分	平成25年	平成24年	増減
死者		7	4	3
負傷者		21	9	12

3 出火原因

出火原因を件数順にみると、「たき火」が15件（全体の18.8%）、「たばこ」が13件（同16.3%）、「放火の疑い」が11件（同13.8%）となっています。また「放火火災」は14件で全体の17.5%を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

（▲は減少）

出火原因	区分	平成25年	平成24年	増減
たき火		15	5	10
たばこ		13	5	8
放火の疑い		11	4	7
こんろ		6	12	▲6
電灯・電話等の配線		4	5	▲1
火あそび		4	4	0
放火		3	7	▲4
ストーブ		3	5	▲2
配線器具		3	0	3
溶接機・切断機		2	0	2
マッチ・ライター		1	3	▲2
排気管		1	0	1
内燃機関		1	0	1
灯火		1	0	1
電気機器		0	1	▲1
衝突の火花		0	1	▲1
その他		8	6	2
不明・調査中		4	6	▲2
合計		80	64	16

4 損害額

火災による損害額は8,424万6千円で、前年同期（4,331万1千円）と比較すると4,093万5千円増加しています。

（▲は減少）

種別	区分	平成25年 (千円)	平成24年 (千円)	増減 (千円)
損害額		84,246	43,311	40,935
建物		83,212	35,106	48,106
その他		689	1,024	▲ 335
車両		337	7,181	▲ 6,844
林野		8	0	8
船舶		0	0	0
航空機		0	0	0
爆発		0	0	0

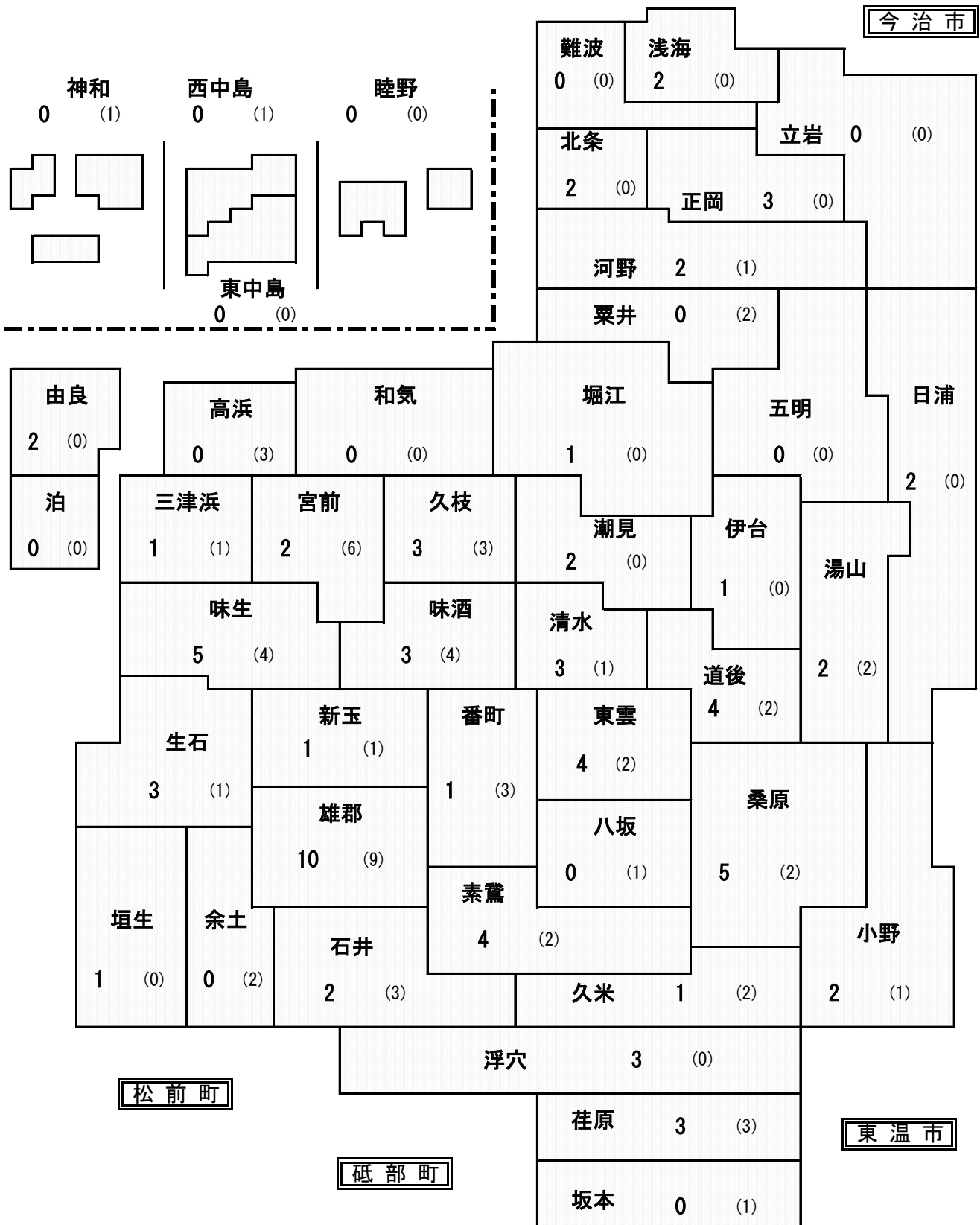
5 近年の火災状況

近年における上半期（1～6月）の火災状況は次のとおりです。

年	区分	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平均
火災件数 (件)		80	64	92	102	109	89.4
焼損棟数 (棟)		67	58	68	99	75	73.4
死者 (人)		7	4	2	3	6	4.4
負傷者 (人)		21	9	13	29	16	17.6
り災世帯数 (世帯)		45	39	46	62	72	52.8
り災人員 (人)		92	92	110	153	161	121.6
損害額 (千円)		84,246	43,311	83,050	112,692	96,302	83,920.2

6 地区別火災件数

() 内は前年同期の火災件数



7 住宅用火災警報器の奏功事例

松山市では、これまでに住宅用火災警報器を設置していたおかげで大事には至らなかった事例が20件も報告されています。(平成25年6月30日現在)

そこで、松山市で実際に起きた、というっかりの危険な具体例をご紹介しますので、住宅用火災警報器をまだ取り付けていないご家庭は、一日も早く取り付けるようにしましょう。

【事例1】 一般住宅(2階建て)

早朝、台所で鍋をコンロにかけて火をつけ、これを忘れて2階に上がり、寝室で寝ていたところ、隣人が住宅用火災警報器の警報音と換気扇からの煙に気付き、火災を発見しました。

当事者は、隣人がドアを叩く音で目覚め、1階に駆けつけると、鍋から1m程度の炎が立ち上がっていたが、水道の水をかけ消火に成功しました。

※ 住宅用火災警報器の警報音は、居住者に限らず、近隣の方が気付くこともあります。

【事例2】 共同住宅(アパート・マンション)

深夜未明、就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、火災に気付き消火器で初期消火を試みたが消火できず、避難しました。

また、階下の住人も同時刻頃警報音に気付き、上階の火災を発見し、119番通報を行いました。

※ 就寝中の火災は、気付くのに時間がかかります。住宅用火災警報器によって、早期の避難が可能になります。また、台所に設置することも有効です。

【事例3】 一般住宅(2階建て)

2階の寝室にいたところ、2階階段室に設置している住宅用火災警報器の警報音に気付き、部屋の外に出ると煙が充満しており、1階に下りたところで火災を発見しました。

また、他の家族も警報音で火災に気付いており、消火活動を行いましたが、消火困難と判断し、家族全員避難しました。

※ 寝室だけでなく、煙の通り道となる階段室に取り付けた住宅用火災警報器も効果があります。

【事例4】 一般住宅(2階建て)

台所のグリルで魚を焼いていることを忘れて、隣の部屋でテレビを見ていたところ、「火事です・火事です」という音声が鳴っているのに気付き、台所に戻ると煙が充満しており、急いでグリルのスイッチを切り消火しました。

同時刻頃、近所の人も、2階から出ている煙を発見し、玄関に行くと警報音が鳴っていたので、住人を呼び出すとともに、消防に通報しました。

※ 119番通報が早期にでき、消防隊も早く駆けつけることができます。

【事例5】 共同住宅(アパート・マンション)

深夜、居住者が寝たばこをしながら寝付いてしまい、布団に着火しました。同じアパートに住む住人が、出火室からの住宅用火災警報器の警報音と煙に気付き、出火室へ向かい、燃えていた布団を屋外に引き出し、水道水で消火に成功しました。

※ 早期の発見による初期消火は、被害の軽減に繋がります。

【事例6】 共同住宅（アパート・マンション）

昼間、共同住宅居住者が調理中であることを忘れ、鍋をコンロにかけたまま寝込んでしまい、鍋が空焚き状態になり、発生した煙で警報器が作動し、近所の住人が警報音に気付いて共同住宅の管理会社に通報しました。管理会社から119番通報があり、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。

※ 火災に繋がることをいち早く発見し、火災を未然に防ぐことができます。

【事例7】 1階物品販売店舗・2階住宅

深夜、1階販売店の従業員が鍋をコンロにかけたまま帰宅し、鍋が空焚き状態になりました。2階に通じる屋内階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に、2階に居住する大家さんが気付き119番通報し、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。

この建物には、店舗内・屋内階段にも警報器を設置していました。

※ 住宅以外の用途にも住宅用火災警報器は有効です。

【事例8】 一般住宅

夕方、台所で鍋をコンロにかけ、火をつけたままで、犬の散歩に行っている間に、鍋が空焚き状態になりました。近所の住人が住宅用火災警報器の警報音で火災を発見し、ガスの元栓を閉鎖しました。

※ 住宅用火災警報器は、火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

【事例9】 一般住宅（2階建て）

1階の居室にいたところ、2階で住宅用火災警報器の警報音が鳴ったため、上がってみるとクローゼット内部から炎が上がっていました。

この家では住宅用火災警報器を2階の各部屋及び階段上部に設置しており、連動して鳴るものであったため早期に火災を発見できました。

※ 連動式の住宅用火災警報器は、別の部屋にいても火災を早期に発見できます。

【事例10】 共同住宅（アパート・マンション）

共同住宅居住者が、夕食後、やかんをコンロにかけたままリビングで飲酒、酩酊状態で寝ていたところ、やかんが空焚き状態になり、炎と煙が発生したことで警報器が感知し、警報音で居住者が目覚めて火事に気付き、共同住宅に備え付けの消火器で消火に成功しました。

※ 住宅用火災警報器の警報音は、就寝中でも火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「119番通報」が早期にでき、被害の軽減に役立ちますが、火災を防ぐことや、消火できるものではありません。日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbkasaiyobo/juukeiki.html>

救 急

第2 救急の概況

松山市における平成25年上半期（1～6月）の救急出場件数は11,850件、搬送人員は10,984人で、前年に比較し出場件数・搬送人員ともに増加しています。

これは、一日平均65.5件、21分59秒に1回の割合で救急車が出場し、市民47人に1人の割合で搬送されたこととなります。

1 救急出場件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・交通事故の順となっており、この3種別だけで、出場件数・搬送人員とも全体の約87%を占めています。

（▲は減少）

区分	単位	平成25年	構成比(%)	平成24年	構成比(%)	増減
出場件数	件	11,850	100.0	11,095	100.0	755
内訳	火災	65	0.5	59	0.5	6
	自然	0	0.0	2	0.0	▲2
	水難	5	0.0	13	0.1	▲8
	交通	1,456	12.3	1,380	12.4	76
	労災	65	0.5	56	0.5	9
	運動	78	0.7	67	0.6	11
	一般	1,482	12.5	1,440	13.0	42
	加害	59	0.5	67	0.6	▲8
	自損	165	1.4	147	1.3	18
	急病	7,307	61.7	6,706	60.5	601
	転院	1,120	9.5	1,106	10.0	14
	その他	48	0.4	52	0.5	▲4
搬送件数	件	10,860	-	10,184	-	676
搬送人員	人	10,984	100.0	10,291	100.0	693
内訳	火災	20	0.2	7	0.1	13
	自然	0	0.0	2	0.0	▲2
	水難	4	0.0	5	0.0	▲1
	交通	1,449	13.2	1,343	13.1	106
	労災	64	0.6	56	0.5	8
	運動	81	0.7	72	0.7	9
	一般	1,392	12.7	1,355	13.2	37
	加害	52	0.5	66	0.6	▲14
	自損	117	1.1	109	1.1	8
	急病	6,688	60.9	6,171	60.0	517
	転院	1,105	10.1	1,094	10.6	11
	その他	12	0.1	11	0.1	1
出場平均(1日)	件	65.5		61.0		
出場間隔		21分59秒		23分37秒		

※1 出場平均については、前年比1日あたり4.5件増加しています。

※2 出場間隔については、前年比1分38秒短くなっています。

2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関9,893人(90.1%)、その他の医療機関1,087人(9.9%)、その他の場所4人となっており、救急医療機関への搬送が過半数を占めています。

告示の別等 \ 事故種別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	6,167	1,387	1,331	1,008	9,893
その他の医療機関	521	62	61	443	1,087
その他の場所	0	0	0	4	4
合計	6,688	1,449	1,392	1,455	10,984

※救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことである。

3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡175人(1.6%)、重症989人(9.0%)、中等症3,021人(27.5%)、軽症6,795人(61.9%)、その他4人(0.0%)となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	0	0	0	6	0	0	22	0	12	132	3	175
重症	3	0	2	56	12	2	127	3	9	434	341	989
中等症	3	0	0	177	11	17	295	1	32	1,792	693	3,021
軽症	14	0	2	1,210	41	62	948	48	64	4,330	76	6,795
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
合計	20	0	4	1,449	64	81	1,392	52	117	6,688	1,117	10,984

(傷病程度)

- 死亡 初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの
- その他 搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

4 応急処置実施状況

救急隊員が行える救命処置（除細動、気道確保、静脈路確保、薬剤投与、気管挿管）の件数は309件（前年245件）となっています。

応急処置	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
	応急処置対象人員	6,548	1,371	1,326	1,405	10,650
止血		15	42	104	25	186
固定		30	339	141	63	573
人工呼吸		32	3	6	7	48
心マッサージ		21	2	5	1	29
Ⅱ	うち自動	8	1	1	0	10
心肺蘇生		217	7	27	24	275
Ⅱ	うち自動	25	1	2	3	31
酸素吸入		1,198	36	60	448	1,742
気道確保		296	14	32	49	391
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	24	1	2	3	30
Ⅱ	うち喉頭鏡・鉗子等	12	0	2	0	14
救	うちラリングアルマスク等	89	2	10	9	110
救	気管挿管	11	0	5	1	17
保温		379	39	47	85	550
被覆		37	436	378	83	934
Ⅱ	在宅療法継続	12	0	2	0	14
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	18	0	2	0	20
救	静脈路確保	64	2	9	12	87
救	薬剤投与	50	8	4	13	75
Ⅱ	血圧測定	6,104	1,307	1,210	1,297	9,918
Ⅱ	聴診器	725	64	61	119	969
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	6,262	1,329	1,253	1,351	10,195
Ⅱ	心電図	1,546	36	62	278	1,922
その他		3,574	215	328	518	4,635
合計		20,580	3,879	3,731	4,373	32,563
拡大された応急処置等		14,950	2,751	2,625	3,086	23,412
(うち救命処置)		232	12	30	35	309

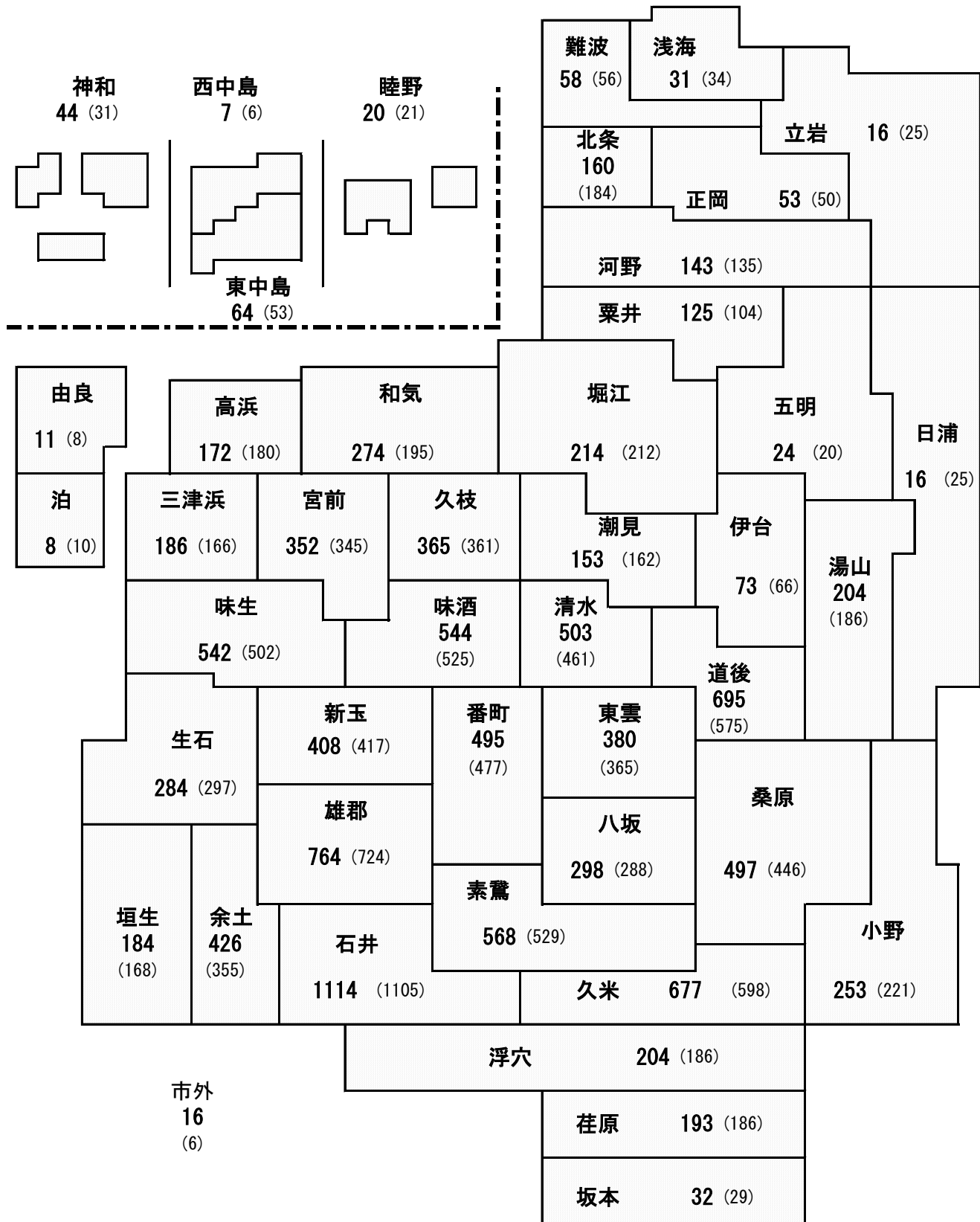
(注)

「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急課程修了者が実施可能な処置
「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置 } 拡大された応急処置等

5 地区別救急発生状況

出場件数 11,850件 (前年 11,095件)

() 内は前年同期の発生状況



平成25年 上半期 火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課

TEL: (089)926-9247 FAX: (089)926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課

TEL: (089)926-9227 FAX: (089)926-9188

E-mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp

※平成25年上半期火災救急統計は松山市のホームページにも掲載しています。
<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbtoukei/toukei.html>